

問3 古賀市で文化活動を行うにあたり、現在、便利または不便だと思われる点があればご記入ください。

・全体的に、特に文化活動は個人の趣味と考える方が多く、生涯学習・社会教育活動という市民の方々の認識が、少し弱い気がする。また、施設利用についても市内外の利用料金に格差があっても良いのでは、市民優先をもう少し出していただければと思う。

・施設、設備の環境に不便を感じます。リーパスプラザ大ホール（800人）は、市民が演劇の公演を行うには広すぎるように思います。小ホール（200人～300人）があると、活動しやすくなります。多目的ホール（300人）がありますが、演劇を行うには設備が整っていないように思います。

・市内の史跡巡り等案内する場合、公共交通機関の便が悪く、車移動となり高齢者の方の移動に不便を感じる。（現地までの参加者マイカー必要）

・交流館が建て替わり、活動の環境が大変によくなりました。感謝しています。

・リーパスプラザができたことで、人が集まりやすくなった。

・前の方がスタジオ（部屋）の時間を守ってない時が時々あるので守ってほしい。
文化協会会員には部屋の料金を少し下げてほしい。

・練習会場の環境が悪い。（冷暖房設備がない、真夏は窓を開けると網戸が無く虫が入ってくる。）学校内施設を提供いただいているので利用料は発生しないが、学校内の行事等で連携が必要。他の文化団体の交流機会が乏しい。

・福岡市の地区公民館で指導を行っているが、使用料は無いので利用しやすい。

・リーパスプラザが中央公民館や交流館、サンコスモ古賀を使用することが多いのですが、職員の皆さんの対応がとても良いです。使用者の立場に立って考えていただき助かっています。コロナ禍で緊急事態宣言下では、それ以前に予約していても制限がかかって困りました。またホールの定員半減は非常に困る場合があります。舞台鑑賞は大声も出しませんし、マスク着用していますので、人数制限を緩めていただくと助かります。2公演すると経済的負担が大きいので。

・交流館施設使用料が高いのではないか。活動は営利目的ではなく自前で行っている。(自己負担) 特にコロナ禍のため使用条件が厳しい。交流館以外で会議等を開催している。

・①少人数で活動する場所数、部屋数が少ない。②文化活動をする若者が少ない。(年寄り子どもばかり) ③古賀市民の文化活動に対する意識が低い。(大事な働き盛りが少ない) ④文化活動を育てる専門家が少ない。

・便利な点：つながり広場の存在 (横とのつながり、相談にのってくださる)

不便な点：行政との連携

・行政、自治会の理解が得られており、安心して活動できる。照明スポット etc の整った小ホール、中ホールがない。多目的ホール etc の使用料が高く、参加者から参加費を徴収しない活動なので負担が大きい。

・コロナ禍の活動規制状況を除けば問題はないと考えている。

・毎月交流館で例会をしていますが、場所が便利で良いです。

・リーパスプラザ内でクラブの活動のほとんどを行うことができます。特に不便さはありません。

問5-2 「問5-1（古賀市の文化・歴史・風景など、古賀市の環境を生かした活動）」にて、実際に行った活動内容をご記入ください。

・令和2年：「朗読と室内楽」で古賀市の民話をテーマに公演実施。

平成29年「サロンコンサート事業」を薦野区「古々地庵」で開催し、薦野区の歴史探訪とセットで開催。

平成28年「サロンコンサート事業」を薬王寺温泉「鬼王荘」で開催。九本柿庵、船原古墳、小山田斎宮、十三仏板碑等、歴史探訪とセットで開催。

・これまでの公演はすべて古賀市の歴史や文化、生活課題を題材にしたオリジナル作品です。年1回の公演ではありますが、公演に向けて、作品のテーマとなる場所に足を運んだり、資料を読んだり、先人から話を聞いたり古賀を知る活動も行いました。

・古賀市立図書館スペシャルお話会

・①古賀民話について 大人のためのお話会、D1だじゃれ大会②科学教室（生き物等）、わらべうたあそび

・古賀市の指定文化財紹介や文化財所在の現地案内、古賀市の未来に残したい樹木案内、千人参り（四国八十八か所移し巡礼）など

・月1回のごみ拾い、まつり会場やグリーンパーク等でのごみ拾いイベント

・「ぬりつなぎ」他団体、古賀市と協働で壁面に絵を描く。

・文化協会に出演協力・お祭りや放生会に出演

・特に古賀市の環境を生かす活動機会はない。市や他団体文化祭やフェスティバル等は演奏で参加している。

・月1回のプレーパークでは千鳥ヶ池公園いこいの丘、樹々が多く坂もあり、子どもたちの主体的な遊びに大いに生かしています。いこいの丘は樹々が多いので、夏涼しくとても良い外遊びの環境です。

・①古賀の地域や歴史を題材とした紙芝居作りとその上演活動。②古賀の地域や歴史を題材とした紙芝居絵の展示会。③古賀の歴史史跡等の勉強会並びに講座の実施。

- ・古賀市の風景等を題材に応募及び入選作品を展示。
- ・古賀の民話の紹介
- ・古賀の歴史文化関係の講演会及び薦野城跡登山会と道路整備、古賀市の事業協賛活動
- ・史跡巡り（古賀市内）
- ・「古賀市内で撮影した作品」をテーマとして、古賀駅美術館に展示

問6-2 「問6-1（公民館や古民家など地域の利用可能な場所を活用）」にて、実際に活動を行った場所をご記入ください。

・サンリブ古賀店でのコンサート。

・庄北区公民館・古賀東区公民館

・病院区集会所とその周りの空き地は毎週。（子どものあそび場、屋外調理などに利用）

・古民家 油や・鬼王荘（赤ちゃんおはなし会（わらべうた、絵本よみなど）→毎月1回）

・行政区公民館、神社仏閣

・リーパス・中川区公民館

・リーパスプラザこが・エコロの森再生展示棟

・リーパスプラザこが多目的ホール・音楽室

・千鳥苑、中川公民館、花見公民館、鹿部公民館等

・①活動拠点を支援センター（エンガワクラブ）としている。②上演場所として行政区の公民館・集会所を利用。③上演場所として古賀市役所駐車場、古賀駅前商店街、筵内なの花まつり会場他

・舞の里5区集会所（絵の審査）・千鳥苑（表彰式2回・絵の展示）・リーパスプラザこが（大ホールにて表彰式・ギャラリーかがやきにて絵の展示）・市役所（一点美術館にて大賞展示・教育委員会フロアにて絵の展示）

・薦野区公民館、薦野城跡等区内史跡案内活動

・リーパスプラザこが交流館103号室で毎月古賀郷土史研究会の例会をしています。年1回リーパスプラザこが多目的ホールで公開講座を市民を集めて開催しています。

・千鳥区、千鳥公民館

問7-2 「問7-1（活動発表や文化体験など、地域に出向いた活動）」にて、実際に行った活動内容をご記入ください。

・加盟団体による出前講座の実施（過去10年の実績）

平成23年度：200回 平成24年度：263回 平成25年度：290回
平成26年度：334回 平成27年度：374回 平成28年度：370回
平成29年度：455回 平成30年度：297回 平成31年度：167回
令和2年度：0回

・庄北区、南区夏祭りでのPR発表・古賀市イベント（古賀を歩こう！・プロムナードコンサート等）

・千鳥小学校への朝読・ちびっこフェスタでの体験（科学もの）

・大人のためのお話会（定例会は民間利用（ミラコなど））D1だじゃれ大会（2012～2015）

・女性学級、成人学級等の出前講座

・平成30年・令和元年 北九州古賀病院秋祭りでの慰問演奏ほか

・ぐりんぐりん古賀で雑がみ講座（公民館など）・花見公民館で鍋すいはん教室

・小学校の文化祭での発表・福祉まつりでの演奏等。福岡市主催の児童館フェスティバル（2019）他

・北九州古賀病院の秋祭り、しゃんしゃんなどで子どもたちが歌う、女学院看護大学学園祭でブース出展、古賀市わくわくフェスタ、童謡まつりなど。

・①上演場所として古賀市役所駐車場、古賀駅前商店街、筵内なの花まつり会場他。②県社協きずなフェス（春日市）、薬王寺温泉、福津市、宗像市、新宮町、福岡市等。③古賀東小フェスタ、薦野まつりほか

・④MOA美術館古賀市児童作品移動展示（古賀駅美術館・コスモス広場。びはらホーム・千鳥苑ロビー・遠賀信金ギャラリー・病院・JA・サンリブ古賀・リーパスプラザこが・市役所・郵便局）

⑤表彰式（リーパスプラザこが大ホール・千鳥苑）

⑥小野校区祭りにて国宝の紅白梅図屏風レプリカの展示と説明

- ・ 薦野夏祭りのバザー参加及び年 2 回の講演会等
- ・ 年 1 回リーパスプラザこが多目的ホールで公開講座を開く。今年は 3 月 18 日に市民を集めて開催。入場者 8 0 名。
- ・ 千鳥苑と福津市の夕陽館の要請を受けて写真の作品展示を行っている。

問8-2 「問8-1（屋外における広報活動や発表など、普段の活動をご存じない方々が観ることができるような活動）」にて、実際に行った活動内容をご記入ください。

- ・JR古賀駅でのポスター等の掲示
- ・市内各所へのポスター掲示（公共施設・古賀駅・飲食店等）
- ・たけのこ文庫みみずクラブ活動・千鳥小チャレンジアンビシャス広場活動（焼いも・焼きリンゴ・（薪で火を起こして）カレーづくり）
- ・D1だじゃれ大会（古賀市商店街）
- ・JR古賀駅をはじめ香椎駅・福岡駅などでのポスター掲示、リーパス内でのチラシ配布やポスターの掲示。地域老人会や夏祭りなどへ積極的に参加し、知名度向上をはかった。
- ・まつり会場でのごみ拾い体験ブースの出展
- ・定期演奏会（リーパスプラザ）・市役所駐車場での祭り舞台演奏・公共施設にポスター掲示・福岡市市民センター等での演奏
- ・芸術文化の祭典に出演
- ・プレーパーク参加者へのチラシ配布、幼稚園・保育園・小学校チラシ配布
- ・古賀駅構内通路、コスモス広場他、団員募集チラシの配布、演奏会のチラシ、ポスターの掲示他
- ・上演場所として古賀市役所駐車場、古賀駅前商店街、筵内なの花まつり会場他。
- ・MOA美術館古賀市児童作品移動展示。（古賀駅美術館・コスモス広場。びはらホーム・千鳥苑ロビー・遠賀信金ギャラリー・病院・JA・サンリブ古賀・リーパスプラザこが・市役所・郵便局）展示等は行っているが、古賀アートフレンズ25が行っていること、願いを伝える活動はしていない。
- ・薦野城跡登山会の開催。講演会の開催（チラシの掲示と区内回覧での告知）

・年間3回発行の古賀郷土史研究会通信の配布で古賀駅、図書館、交流館など10か所に配布しています。

・JR古賀駅、ししぶ駅、千鳥駅、千鳥苑、市役所、公民館、リーパスプラザ、市立図書館等に作品展示会ポスターの掲示

問10 昨年の新型コロナウイルスの流行に伴い、活動を行う上で工夫されたこと、また手法を変えて新しく行ったこと等があれば記入ください。

・①コンサート等催事にあたっては、出演者・関係者の検温・消毒は勿論のこと、受付にて来場者（入場者）の氏名・連絡先の確認・検温・消毒を実施。約1時間を目途に、換気の実施。終了後は机・イス等の消毒の実施。

②コンサート催事の様子を、SNS（ユーチューブ、フェイスブック等）で紹介。

③総会が開催できないので、書面評決による総会の実施。

・安心安全のための準備（検温器を購入して検温実施・手指消毒用購入・不携帯の子どものため、不織布マスク常時おく・会場準備で机、椅子消毒→使用後消毒）・行事（イベント）の時間短縮・子ども活動（みみずクラブ）に食育について家庭学習に切りかえ・赤ちゃんおはなし会で使用した道具、敷物は毎回消毒、洗濯すること

・小学校へのお話会はできなかった。

・保育園へお話会はマスク（不織布）、手指消毒、三密をさける、を気をつけ、実施できた。（保育園にて検温チェックあり）

・図書館の本の貸し出し（オンライン）での内（家）読実施、定例会が出来ないとき、ミラコ利用。

・事業取り組みの変更やとりけし（子どもゆめ基金助成活動に対して）

・当初は屋外でマスク着用、ハンドマイク使用で活動していましたが、感染拡大に伴い全面休止しました。

・全体練習は全て中止。少人数による弦楽器だけあるいは管楽器だけでの分奏練習を行って対応した。

・参加人数を減らす。

・道具の共有をしない。

・リモートの活用や動画の配信

・アルコール・体温計の準備。換気を常にする。

・スマホで連絡を取り合い、先生より動画を送ってもらい、各自で自宅にてダンスの振り付けなど体を動かした。

・検温、消毒、マスクをつけて活動、他感染対策。

・感染予防策（検温、消毒、距離を保つ、不織布マスク着用、チケットも直接触らないなど）を行い、そのことを定期鑑賞会のチラシにも明記、安心して参加してもらえるようにした。活動をできるだけ外で実施。コロナ禍の子どもや大人への影響のアンケートや孤立しないための声掛け。（会員ひとりひとりにできるだけ。特に乳幼児の親。）

・行政区の各公民館、企業等を利用して会議を開催。会議の開催回数をできるだけ減らし、電話等を利用。

・①会活動を思い切って休部とした。なお会員の気持ちが萎えないように情報交換のみは継続させた。②上演時は会員間のソーシャルディスタンスとフェイスシールド着用を徹底させた。また相手側にも換気とソーシャルディスタンスを求めた。③会の存続を希望する者が多く、活動方法を検討中。

・「コロナ禍だからこそ芸術文化を絶やさない」という考えを基本に前向きに検討。次年度に向けて整理、簡素化、見直し。実行委員会をオンライン会合で実施。

・通常の活動は屋外をメインにして実施。室内で本を読んだり借りたりするときは少人数で実施。

大きなおはなし会は集会所デッキで上演。観客は屋外（公園）で実施。開放感もあり、非常によかった。

・コロナウイルス感染症防止策の徹底と人数制限。

問11 新型コロナウイルス流行や災害時などの際でも活動続けるためには、今後、どのような仕組みが必要と考えますか。ご意見があれば、記入ください。

・特に、コンサート催事の様子及び加盟団体の練習様子などを、SNS（ユーチューブ、フェイスブック等）による情報を発信し、より多くの市民の方へ活動状況を伝えること。

・今回のコロナウイルスの様な流行があれば、正直、演劇を通しての活動は困難になると思います。オンラインでの発信等も考えられますが、そのノウハウも演劇技術も持ち合わせていないのが現状です。その点も含め、コロナ禍でも活動を続けていく為のアドバイス等をしていただける様な仕組みづくり。感染対策、支援策等、情報提供等の学習の機会をお願いしたいです。

・安全安心を心がけること。

・防災の時のための学習（みみずクラブ、千鳥小チャレンジアンビシャス広場では、時短できる防災食をつくる・新聞紙でつくるスリッパやゴミ袋づくり）

・文庫の本の貸し出し（家庭でも本を読むこと、本を読んでやるのが大事）

・安全、安心をこころがけること。会場の確保（民間施設や屋外など）

・行政（文化課、商工政策他）や業界（商工会他）との連携強化による活動の充実とレベルアップ。

・命にかかわるリスクを犯してまで行う活動ではありませんので、当然そのような場合は活動を休止するしかありません。

・情報の共有

・再開を待つのみです。

・活動を行う上で指針を示して、マニュアル等があると活動しやすいと思います。

・メンバーがはっきりしていること。会員制であるので、もし感染者がでて動きをはっきり掴めるなど会員制の良さを感じた。活動には必ず場所が必要なので、使用できる場所の情報が早くほしい。感染症や災害、どちらにしても科学的で正確な情報を提供してほしい。また情報弱者への配慮も必要。

・会員間は必要最低限度の連絡を行い、意思の疎通を図る。今年（15回目）演奏会は必ず開催する（できる）という気持ちを持ち続ける。

・会員は年寄りが多く、意識も「据え膳型」の人が多いため、若い積極性のある会員への世代交代。新しい時代に合った上演活動の工夫も必要かと。（例：リモート式の紙芝居等、デリバリー型も検討）

・作品のウェブ上での応募や入賞者発表、絵の展示ができるような仕組みが必要。オンライン上でのホームページの開設。

・オンラインでの打合せ、会議。オンラインでのよみきかせやパフォーマンスも考えたが、やはり対面で子どもと接することの意義は大きく、そこまでしてする必要があるのか疑問。屋外でのシアター上映を計画したいと考えている。ドライブインシアター等。（これらは仕組みとは違いますが）

・コロナの緊急事態などで公共施設（交流館など）が使用中止になる場合、各団体にこの情報を連絡する仕組みがあればよいと思います。（交流館に行って初めて使用中止を知りました。）

問12 団体の活動にあたって、現在感じている課題があれば、記入ください。

・最大の課題は、加盟団体の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等により団体活動が低下したことにより、会員減少が顕著になってきている。

・人（団員、お客様）集め／資金集め

・全体として、文化芸術への理解が高いようには思えません。どのように理解を求めていけば良いのか、劇団としての役割は何なのか、悩むところです。

・早く対面活動ができることを願います。その内であっても、自治会をとおして各家庭への配布物にぬり絵とかなぞなぞ、クイズなど（出版社の著作権の確認をとる）入れてもらう、人と人とのコミュニケーションのために必要なものを考えていくこと。

・ラインや会報を通じ、または電話を利用し、コミュニケーションをこころがける。

対面会話、赤ちゃんにはふれあいあそび（わらべうたあそび）を早く実施せねばならないと考えています。（子どもはまってくれないーもちろん大人（お母さんたち）は心のよりどころを必要としている）地域公民館での活動が必要と考えています。国語辞書を引くことを子どもたちと大人がたのしむこと。

・デジタル技術活用により、古賀市の歴史が、いつでも、どこでも、だれでも目に見えるようにしたいのですが、高齢者グループのため、デジタルに弱い…克服したい。

高齢者の自動車運転免許証自主返納が活動の障害になりつつあります。

・団員の不足は創設以来の課題です。特に古賀市在住の団員がきわめて少なく、これが2桁そして望むなら過半数になれば名実とも古賀市のオーケストラとして認めていただけるのではないのでしょうか。

・もっとPRをして、仲間を増やし、ダンスの楽しさを伝えたいです。

・音楽活動は飛沫による感染の危険があるので、新入部員を募集できず困っている。終息したら体験等を通じて活動を行いたい。

・会員の減少、高齢化

・私たちの団体は「3密集団」(※比喩的な意味です)であると感じています。人と接触し、直接集まって話す、つながりは大事にする団体です。舞台も生であることに意義があります。リモート、映像では替えることができない活動ですが、このまま映像、オンラインに慣れてしまい、生の舞台へ足を運ぶことに何らかの感染へのリスクがともなうと考える人が増えることを危惧しています。また児童演劇のづくり手、創造団体がコロナ禍で受けた経済的打撃は大きく存続が危ういところもあります。創りつづけること、継続すること、舞台に立つことなど舞台芸術への理解が薄いと考えます。よりいっそう私たちのアピールが必要だと思っています。直接人と関わって、子どもたちは社会的に成長します。これからも人と人のつながりを大切にして活動していきたいと考えています。

・交流館施設使用料(ホール等含む)を減額してほしい。(減免等など)利用しやすい料金。施設使用時間を30分単位にしてほしい。使用(利用)する側に立って決めてほしい。施設使用の場合カギ渡しは使用10分前にしてもらいたい。5分前は直近過ぎる。(階段を登るのに数分はかかるため)

・古賀市内に若者は沢山いるが、若者の活動が根付いていない。抜本的な方法を市が中心となってやってほしい。例)①古賀市の職員を強制的に文化系体育系サークルへ投入する。(仕事として頑張っているが、私生活での貢献度を疑問視する)②子育てしながら活動できる市民の体質を変える。(補助金を出して参加体制を作るなど)③補助金制度が未熟で多様化されていない。また活動にも魅力ある活動団体を作ってほしい。(そちらへの資金を投入して育成を望む)

・①中心で働く担い手が不足。②資金の問題(コロナ禍にあり、協賛金が不足すると考えられる)③全国の会場では行政、教育委員会、他団体との共催が進んでいる。また美術館と行政、教育委員会とのつながり(学びや体験)が存在する。全国で開催されているMOA美術館児童作品展の、児童の情操教育、心の健康、生きる力を育むという学校指導要綱のサポート、日本文化の発信など、文部科学省、厚生労働省、外務省の中でも位置づけのある児童作品展であることをしっかり伝え、共催を進めること。

・子ども食堂的な活動も実施していたが全くできなくなり、専ら屋外での活動が中心となったが、子どもたちはよく遊んでいる。スタッフの中には教員、公務員、介護施設職員もおり、非常に気を付けながら実施している。屋外での体験活動で火おこしや焚火をしているが、もっと火や水を自由に使える場(届け出を出せば)、キャンプ場のような場が、子どもたちが歩いていける校区ごとにほしい。

・新会員増加に向けての手法の模索。地域の歴史を次世代の子どもたちへのつなぎかたの方法

問14 問13の回答となった理由があれば、ご記入ください。

・劇団 DAICOON は活動休止の選択をしました。資金面での苦労が一番の理由です。古賀市を盛り上げるために！と結成した団体でしたが、これ以上活動を続けていくと、個人の負担がかなり大きくなると予想されました。正直、文化活動を行う環境は、特に変わってないように感じます。

・リーパスプラザの建設や「つながりひろば」によるコーディネート活動など文化芸術振興計画のもとで着々と進められているように見えます。ただし文化芸術への理解や意欲は一朝一夕に高まるものではありません。当オーケストラも地域の文化向上に資することをその目的に挙げていますが、残念ながら市外からの団員が圧倒的に多いことは、そのことを象徴しているように思います。

- ・飲食のできる場所が増えた
- ・リーパスプラザの予約は取りにくい。

・昨年からコロナウイルスで活動の自粛をしていますが、それ以前でもリーパスプラザこがができた後も、気軽に館内に立ち寄り、芸術や文化に触れる機会が無いように感じています。

・リーパスプラザこがが完成したことで活動の拠点はできている。ホールも照明音響とも改修が行われ整備されている。特に現スタッフになってホールの使い心地はとても良い。専門的な相談もしっかり受けもらえる。ただ減免がなくなったことで経済的には大変になっている。子どもたちが多い使用については福岡市のように名簿を出してもいいので減免を考えていただけないでしょうか。

問15 現在の「古賀市文化芸術振興計画」は令和5年度に終了するため、現在は第2期計画策定の準備を行っています。以前のアンケート回答も参考にいただき、今後、古賀市が文化で活性化するために文化団体として計画及びアクションプランにて提案する内容等ございましたらご記入ください。

・活動団体を企業等とマッチングし、双方が活動や運営の幅を広げられるような仕組みづくりをお願いしたいです。

・新しい宝を見つけることは、とても大切だと思いますが、それと同時に既存の宝、すでに頑張っている活動者や団体が活動を続けていける様しっかり支えていただけたらと思います。

・上(問14)に述べたように長期的な視点に立って眺めるならば、幼少期からの教育が必要であり、小中学校への音楽活動の啓蒙をまず第一に考えていただきたい。合唱や楽器演奏を聴く機会そして自ら体験する機会をできるだけ多く持たせること。そのためには良い演奏家や指導者を準備することが必要です。それなりの予算措置もなければ実現できません。そしてできるならば対象に「クラシック音楽」も加えていただければ当オケの将来はバラ色??

・古賀キッズブラスは小学生バンドなので、古賀市内の中学校や高校生と一緒に活動できる演奏会等を企画してほしい。

・子供たちの芸術文化の祭典のような催しを行いたい。

・朗読や演劇、音楽と踊り全てで創りあげる作品等の発表の場が欲しい。子どもがワクワクできる、そんな古賀市であってほしいと考えています。

・古賀市の高学年から中学生が年に数回必ず生の舞台の接する機会(年1回や2回ではなく)をつくっていただきたい。子どもたちがホールに客として迎え入れられる体験も必要。大人に大切にしてもらったという記憶につながり、自己肯定感があがることにもつながると思えます。文化の担い手、良き鑑賞者となる子どもたち、幼い時から自然に親しみ、外遊びを充分に行うことの文化の活性化につながるとおもいます。メディアリテラシーを！(SNSなど子どもたちのメディア環境は悪化しています。乳幼児期のメディア啓発を古賀市は実施されて、すばらしいと思います。)